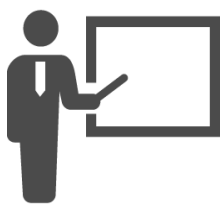


シター

～統括コーディネーター特集～

発行元:教育委員会事務局 地域教育力推進課 地域連携係 TEL3579-2619

学校支援地域本部事業において、地域コーディネーターの中心となる存在として2名の統括コーディネーターに活動いただいています。今回は、統括コーディネーターの方が活躍された地域コーディネーター初任者研修交流会と、赤塚地区副校長会の様子をご紹介します。



統括コーディネーターとは？

地域コーディネーターの育成・助言・指導、学校支援地域本部の理解促進活動などを行っています。令和4年度からは、2名体制となり、地域コーディネーター向け研修の企画・運営や相談の対応、学校長への学校支援地域本部の周知などを行っています。

しらとり のぶひろ

■白鳥 円啓氏

成増小学校で長年にわたり地域コーディネーターとして活動していらっしゃいます。

地域コーディネーター経験者として、地域側のサポートを中心に行っていただいております。

おおの ただお

■大野 忠雄氏

2年前まで蓮根第二小学校の校長先生でした。

学校管理職経験者として、学校側のサポートを中心に行っていただいております。

地域コーディネーター初任者研修交流会

令和5年度の地域コーディネーター初任者研修交流会が、6月23日(金)に開催されました。

統括コーディネーターの白鳥円啓氏には『学校支援地域本部とは、地域コーディネーターの役割』というテーマで、事例紹介を交えてお話していただきました。そもそも学校支援地域本部とはなんだろう？地域コーディネーターの役割とは？という話から、コーディネートする上でのポイントや心得など実践的なことまで、具体例を紹介しながら分かりやすく説明していただきました。



同じく、統括コーディネーターの大野忠雄氏は『学校から見た学校支援地域本部』というテーマで、学校管理職経験者だからこそ感じることができる地域コーディネーターの役割や存在意義についてお話していただきました。

参加者からは、「地域コーディネーターとしてどのような活動をすれば良いか分かった。」「学校側の声を聞くことができ、活動の励みになった。」などという声がありました。

赤塚地区副校長会

赤塚地区副校長会が、6月9日(金)に成増小学校で行われました。副校長会では、統括コーディネーターの白鳥円啓氏が成増小学校での長年の地域コーディネーター活動を踏まえ、「CS委員会、学校支援地域本部、学校との繋がりについて」や「地域コーディネーター、副校長、担当教員の動きや役割について」などをお話くださいました。学校と地域コーディネーターの関わりを深めるためには相互理解が重要であり、成増小学校では学校の年間計画を確認したり、困っていることをヒアリングしたりして教員の気持ちを理解するようにしているとのことでした。

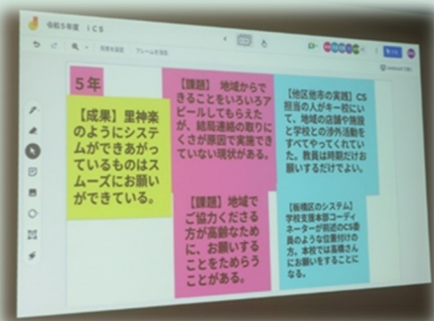
参加した副校長先生は、「地域コーディネーターを募集するにはどこに働きかければ良いのか?」、「地域によるサポートが長く続くためにはどうすればよいのか?」などを質問し、学校と地域が上手に連携するためのヒントを得ていました。

学校支援地域本部の取組などについて、統括コーディネーターが相談に応じます。
事務局までお気軽にご連絡ください。✉ky-crenkei@city.itabashi.tokyo.jp

成増ヶ丘小学校CS委員会の熟議を紹介します

成増ヶ丘小学校では、「今後増々深めたい地域と学校の連携」をテーマにCS委員の皆さんと全教員でグループに分かれて熟議を行い、教員が困っていること、地域の方に助けてほしいことなどをCS委員の皆さんに共有しました。熟議のテーマについて副校長先生は、「こんな学校にしたい!と理想を語るだけでなく、本音で話し合い、地域と学校が助け合えるきっかけになってほしいという思いがある」と話していました。

教員の困りごとについて、水泳の授業や体カテストなどにおける人手不足と、まちたんけんでの知識不足などが意見として多く挙がりました。まちたんけんは地域のことを深く知らない教員が行うよりも、地域をよく知る方にお手伝いしてほしいという意見がきっかけで、実際にボランティアとしてお手伝いしていただくという話まで進んでいる班もあり、充実した熟議となりました。その他にも、地域の方の人脈によるゲストティーチャーの紹介や職場見学先の提案などがCS委員の方から提案され、「そんなことまでやっていただけるのか!」と驚きの声が上がっていました。



CS委員会は、教員が毎回出席することが難しく、年に一回程度しか合同で熟議を行うことができない学校がほとんどです。CS委員の方々と教員の関係を一度きりで終わらせないために、成増ヶ丘小学校では、CS委員の方々と教員が直接連絡を取ることができる仕組みをつくりました。

熟議の中で、教員が困っていることや悩みなどを共有しましたが、その場だけで終わらず、話し合った内容を具体的に行動に移すことができれば、CS委員会での熟議がより意味のあるものになるでしょう。

★iCSフォーラムを開催しました★

7月21日(金)にiCSフォーラムを対面とオンラインのハイブリットで開催し、90名以上の方にご参加いただきました。

iCSの事例紹介、一般社団法人きてきて先生プロジェクト代表理事 香月よう子氏による講義「学校課題を議論するための“熟議”とは?」、グループワークが行われ、熟議について考えや知識を深める内容となりました。

※iCSフォーラムは、二次元コード先のリンクから12月31日までアーカイブ配信を見ることができます。
ぜひご覧ください。

